

開催にあたって

最近のインスリン療法の進歩には目を見張るものがあり、CSII療法分野では、各社からプログラム可能な機種が発売され、また超遅効型インスリンも本年末には発売が予定されております。

今回の研究会では、米国で専門診療に携わっておられる大塚孝裕先生(Loma Linda大学)に「米国におけるCSIIおよび連続血糖モニターの臨床応用の実際」と題してご講演頂き、その最新事情をご紹介して頂きます。さらに今回は2つのパネルディスカッション1「CSII療法における各社ポンプの利点と欠点」とパネルディスカッション2「超遅効型インスリンはCSII療法を越えられるか?」を用意させて頂きました。パネルディスカッション1では、最近各社から発売されたCSII用のポンプへの理解が深まるものと期待されます。パネルディスカッション2では、超遅効型インスリンを既に米国でお使いの大塚先生さらに国内の治験の総括的な役割をして頂いた内潟安子先生(東京女子医大)にご発表して頂きます。来るべき超遅効型インスリンの特性につき有用な情報が得られるものと期待されます。

一般演題では、全国より応募頂いたインスリン療法に関する医療者サイドの発表に加え、長年CSIIを実践しておられる患者さんのJoe Kraimerさんに難波光義先生とともにクリニカルトークセッションとしてその体験をご発表頂きます。会場では患者さんの自由な発言も歓迎致します。メーカー展示コーナーに各社より最近の製品をそろえて頂きます。

甲府駅近くの会場で13時から半日の日程で開催いたしますが、東京から会場まではわずか90分の距離ですので、医師、コメディカルスタッフ、さらには患者さん皆様のご参加をお願い申し上げます。

先進インスリン療法研究会代表世話人
第3回先進インスリン療法研究会当番世話人
山梨大学医学部第3内科

小林 哲郎